

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

競馬界の最前線で活躍する「今が旬」の馬や人をご紹介します。このコラム。今回はまさに今、乗りに乗っているジョッキーをご紹介します。日本の競馬ファンにおかれては、昨年11月に東京競馬場で行われたジャパンCを克蘭ダガンに騎乗して制し、外国調教馬として20年ぶりの優勝を果たした男としてお馴染みの、フランス人騎手ミカエル・バルザローナ(34歳)が、その男である。

91年8月3日に、仏国南部のアヴィニオンで生まれたバルザローナ。祖父クリスチャン・バルザローナがコルシカ島を拠点に開業していた調教師で、叔父アーマンド・バルザローナが障害にも平地にも乗る騎手という家柄に生まれた彼は、幼い頃から騎手を目指した。

17歳だった09年にプロデビュー。馬を育てるのと同様、人を育てるのにもかけても名人と称される伯楽アンドレ・ファール調教師のもとで研鑽を積み、早くから脚光を浴びる存在となった。2年目の10年4月に、自厩舎のシモンデモンフォールでG3ラフォルス賞を制し、重賞初制覇。11年5月に、これも自厩舎のウエイヴァリングに騎乗してG1サンタリ賞を制し、G1初制覇を果たした。

若武者バルザローナの名が、一躍世界に轟いたのが、11年6月4日に行われ

たG1英ダービーだった。この年の英ダービーで、オッズ3.5倍の1番人気に推されていたのが、エリザベス女王の所有馬カールトンハウスだった。前年10月、ニューバリーのメイドンで9馬身差で制し、デビュー2戦目で初勝利をあげた同馬。3歳初戦となったのが、ダービーへ向けた最重要プレップと位置付けられているヨークのG2ダンテSで、同馬をそこも制し重賞初制覇を果たしたのダービー

参戦だった。英国における3歳クラシック競走で、エリザベス女王が唯一手にしていなかったのがダービーで、女王にとつての悲願達成を見届けるために、王室一家は総出で応援のためエプソムダウンスに駆け付けていた。だが、カールトンハウスは勝ち馬から頭^{3/4}馬身差の3着に敗退。女王の願いは届かなかった。

その11年の英ダービー優勝馬が、当時19歳だったバルザローナが騎乗したブルモワだったのである。仏国調教馬による英ダービー制覇は、1976年のエンペリー以来35年ぶりという快挙だった。デビュー3年目にして「ザ・ダービー」を手にしたバルザローナは、明らかに有頂天になっていた。ゴール前30mほどで勝利を確信した彼は、その段階で馬の上で立ち上がり、右手で高々とムチを頭上に掲げながらゴール。それ以前の段階として、ムチの過剰使用も犯し

ており、バルザローナはエプソムの裁決委員にたっぷりお灸をすえられることになった。まさしく、若気の至りである。

バルザローナが、ゴドルフィンの仏国における主戦騎手に指名されたのは、翌12年の3月だった。バルザローナは早速、ゴドルフィンが所有するモンテロッソでこの年のG1ドバイワールドCを制覇。すぐさま結果を出すあたり、持っている男の真骨頂だった。

技術を磨き、精神面での成長も見せた彼は、21年に自身初となる仏国リーディングのタイトルを獲得している。

ゴドルフィンとの契約が24年を持って終了。バルザローナは25年からアガ・カインスタッドの主戦として騎乗することになった。25年の彼の大活躍は、皆様のご記憶にも新しいところだろう。ザリガナでG1仏千ギニーを、克蘭ダガンでG1キングジョージ6世&クイーンエリザベスSなど4つのG1を、ダリーズでG1凱旋門賞を制するなど、まさに無双の騎乗ぶりを見せた。

バルザローナはさらに、26年2月13日にサウジアラビアのキングアブドゥルアジーズ競馬場で行われた「インターナショナル・ジョッキース・チャレンジ」でも総合優勝。ミカエル・バルザローナ騎手の勢いは、益々加速していると言えそうである。